2014年（平成26年）
第82号
（10月1日）

平安月報
The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　宮地啓安
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条蹴上
TEL (075)762-2211
FAX (075)762-2266

全国明社大会　～一隅を照らす～　『そうだ 明社をやろう』

９月６日～７日、「感動！感激！感謝！」提唱45周年“一隅を照らす”『そうだ明社をやろう』と題して、明るい社会づくり運動全国大会が国立京都国際会館と比叡山延暦寺において開催されました。

荒川祐二さんの基調講演

本運動は今年、提唱４５周年を数え、この記念の年の全国集会を京都で開催されました。

６日は国際会館・アネックスホールで基調講演とパネルディスカッションが行われました。

基調講演では、講師に立たれた「100万人のGOMI拾い提唱者」の荒川祐二氏のユーモア溢れる話に全員が引き込まれ、まずは行動を始めることの大切さを学びました。

引き続き行われましたパネルディスカッションでは実例を写しながら様々な意見が交わされました。

パネルディスカッション

その後はプリンスホテルに会場を移し、交流懇親会で全国の明社担当者と交流を深めました。

懇親会での太鼓演奏と京小町踊り子隊

翌日、７日は比叡山根本中堂参拝、境内散策後、延暦寺会館で今出川行雲大僧正から『一隅を照らす』の法話を頂き、自ら地域社会を照らすことの大切さを学びました。

延暦寺会館への移動

今出川行雲大僧正の法話

時々刻々

十月二十二日に京都三大祭りのひとつ、時代祭が行われ、延暦から明治に至る千余年の文物風俗を模した時代風俗行列が京のまちを練り歩きます▼この祭りは平安遷都から千百年目を記念して明治二十八年に、桓武天皇を祭神として平安神宮が造営され、その紀念祭が挙行されたことに起源します。戦時中の昭和十九年から中止されましたが、二十五年に復活し、時代婦人列を加えるなど、内容が充実して現在に至っています▼行列の順序は明治維新から順次古い時代にさかのぼって延暦時代に至ります。各時代の歴史上の人物や当時の装束から、絵巻物から飛び出してきたような光景を目にすることができます▼伝統、文化、芸術、宗教の奥深さを持つのが京都の特徴と言えるでしょう。時代祭にある歴史を大切にし、後世に伝えていくことは、この時代を生きる者の務めのように思う。

今月のことば　～小食と心身の健康～

壮年部顧問　山本　恭央

●適量を知って健康に

「私たちはともすれば欲望に振りまわされ満腹になるまで食事をしてしまいます、そしてその飽食の代償として肥満や生活習慣病に悩まされます。また日本では一年間に一人当たりおよそ６０食分が捨てられている『食品ロス』生じているといわれています」と説かれています。

以前に新聞に出ていましたが、世界で食べるものがなく死んでいく人は年間で 2,200 万人にも及ぶそうです。その内、子供が６５０万人、約５秒に一人の子供が死んでいるという事です。私たちは今、「一食を捧げる運動」というものをさせて頂いております。月に２回食事等を抜き、少しでも食べられない人のつらさを知りその分を献金させて頂こうというものです。この一食運動の大切さ尊さを改めて分からせて頂きました。

2,500 年前に毎日毎日満腹になるまで食事をし、苦しんでいるコーサラ国王に釈尊が**『つねに心を落ちつけて適量を知って食べる人は、苦しみが少なく、老いもゆるやかで、寿命を保つものです』**と諭されました。王は深く反省をし食事のたびにこの言葉を唱えて、少しずつ食べる量を減らし、すっかり健康になったということです。この事は現代人の我々にも通じる大事なことがここに教えられています、一食一食、食べすぎない、ここに生き方の基本があると釈尊は示されたのです。私たちは年令や体力に応じた適量の食事を知ることが大切と説かれています。

最近はテレビで、ご馳走やおいそうなものを食べている番組やコマーシャルをよく見かけます。そして私たちもついつい食べ過ぎてしまいます、しかし飲みすぎ食べすぎた時の薬があり、また、肥満になっても薬を飲むことによってやせられるという便利な世の中ではありますがでも、釈尊の「つねに心を落ちつけて、適量を知ってたべるひとは、苦しみが少なく、老いもゆるやかで、寿命をたもつものです」のお言葉が大切と実感をいたしました。いよいよ秋も本番「食欲の秋」ともいいますが、この時こそ飲みすぎ食べすぎのないように、お互いさま心がけたいと思います。

●食前感謝のことばを唱えよう

「**『仏さま、自然の恵み、多くの人に、感謝して　いただきます』**と声をだして頂くと前項で釈尊が言われた『老いもゆるやかで、寿命を保つものです』という気持ちになれる」と説かれています。「また、その気持ちになると**動植物の生命（いのち）を頂く**という現実が、まずそこにあります。自然の恵みを育て、加工し、届けてくれた人のご苦労や食事を作ってくれた人の思いも観えてきそうです。そのことが智慧に基づいてものごとを正しく観たり、大きな視点でとらえることを意味しています。」と教えて頂きました。

「貧しい生活のなかでも毎日丁寧にダシをとった味噌汁の一杯のお椀に母親の思いを感じ、一膳のご飯を前にして自然に食欲がわいてくる健康の有り難さ一日一度の食事もとれない人びとに思いを馳せ、自分の現在の幸福を味わい直す事が出来心を落ちつけて食事に臨むとき、私たちは感謝にめざめるのです。食べたいものを食べたいだけ食べることのマイナス面に気づき小食になり、それが健康を助けます。

感謝は生命を尊ぶ心を養うなど、心の健康の原点である」と説いてあります。

そして「ちなみに『食品ロス』の問題でわが家では賞味期限の迫った購入するよう努めています。そうすれば、期限切れで廃棄されるものが一つでも減ると思うからです」このように身近な実践も説いて頂いております。

さて、わが家でもスーパーに妻と行きますが買い物をするとき意見が分かれます。家族に少しでも新鮮なものを食べさせたい、また保管が長くできるよう日付の新しいものを後ろから取り出す。その行為は分からないことはないのですが、全部の人がそんなことをすれば先ほどの「食品ロス」が増え原価高になり結局は高いものを買うということになると思います。

以前、ある科学者の講演で、私たちがスーパーなどで買い物をするとき食品売り場に行き食品を買いますが、それは**食品という「品もの」ではなく、動植物の尊い御命（おんいのち）**なのです。動植物たちはからだ、いのちを犠牲にして私たちにほどこしているのです。ブタも、ウシも、魚も、大根も、ニンジンも、玉子も…ですから本当は「品もの」ではないのです。この話を聞かせて頂き、食べるものの考えかたが変わってきました。

私は、最近血圧が上がり、心臓にも少し不整脈があるようで年令からくるものと思っておりましたが、病院へ行き診て頂きましたところ、やはり食べすぎ呑みすぎが原因で、もっと減らすようにと注意をされました。この機会に「つねに心を落ちつけて、適量を知って食べる人は、苦しみが少なく、老いもゆるやかで、寿命をたもつものです」のおことば通り実践して行きたいと思います。

合掌

第8回　ＡＣＲＰ報告

『アジアの多様性における一致と調和』を総合テーマに、第８回ＡＣＲＰ（アジア宗教者平和会議）大会が韓国・仁川（インチョン）市のソンド・コンベンシアで８月 25 日から 28 日まで開かれました。韓国での開催は 1986 年の第３回大会に続き２回目。大会には、26 カ国から正式代表やオブザーバーなど約 450 人が参加し、平和実現に向けた宗教者の行動について議論を重ね、大会宣言文を採択しました。

立正佼成会からは、正式代表の庭野日鑛会長、庭野光祥次代会長はじめ本部スタッフや会員が出席、京都教会からも渉外部スタッフが参加しました。

大会には 26 カ国から約４５０人が参加。民族、文化、宗教などの違いを超え、対話を通して平和への道を探りました。全体会議では、発題や各国委員会の活動報告が行われ、問題解決に向けた宗教者の役割などについて討議されました。

26 日の開会式では、キム・スンゴンＡＣＲＰ事務総長（韓国、圓仏教）の開会宣言、諸宗教の祈りに続き、ディン・シャムスディーン同実務議長（インドネシア、ムハマディア会長）があいさつ。このあと、パク・クネ韓国大統領、ローマ教皇フランシスコはじめ９人のメッセージが紹介されました。

次いで、庭野会長、ミル・ナワズ・カーン・マルワットＡＣＲＰ名誉会長（ＷＣＲＰパキスタン委員会会長）はじめ４人が基調発題に立ちました。６回にわたる全体会議では、発題や各国委員会の活動報告などが行われました。今回新たにマレーシアとミャンマーがＡＣＲＰに加わり、加盟国が 20 カ国になったことが紹介されました。さらに三つの分科会が開かれたほか、『朝鮮半島における和解と一致』と題するワークショップも行われました。

28 日には大会宣言文が採択。宣言文には、11 項目の行動計画が明記されました。

会期中、全体会議で畠山友利ＷＣＲＰ日本委事務局長がＡＣＲＰ新事務総長に選任されました。共同会長には庭野会長はじめ８人が就任。また、20 カ国から 61 人の管理委員（うち執行委員 46 人）が選ばれ、日本からは川端健之立正佼成会・理事長ほか５人が選出されました。

このあと、新管理委員会が行われ、シャムスディーン師とジャ・スンＫＣＲＰ（韓国宗教人平和会議）会長が共同実務議長に就任しました。

閉会式では、キム・スンゴン氏が事務総長退任の言葉を述べました。畠山新事務総長は就任のあいさつに立ちました。

速報　ＷＣＲＰ国際評議委員会より　～ニューヨークより～

ＷＣＲＰ国際評議委員会がアメリカ･ニューヨークで９月20日から22日まで開かれ､ジャパニーズトラスティーズのメンバーが参加しました｡京都教会からも田中渉外部長代理が出席しました。

３日間を通して｢暴力的過激主義に対する諸宗教の反応｣｢地球保護における宗教の積極的な役割｣｢宗教と気候変動｣といった幅広い問題に対しての議論を行い､声明文を発表しました。

（次号に詳細掲載予定）

深草墓園秋季慰霊式典

９月13日午前10時から、京都市深草墓園において京都市主催の秋季慰霊式典と遺族会主催の同慰霊法要が開催されました。

慰霊式典では、門川大作・京都市長の式辞にはじまり、京都市議会議長及び遺族代表の弔辞、遺族代表による献花が執り行われました。門川市長は式辞で、伝統・文化・芸術・宗教の分野で世界に誇れる京都になったのは、先達の方々の努力のたまものだと賞し、私たちもその誇りを継承していくと、誓いを述べられました。

引き続き行われました慰霊法要では、全日本仏教尼僧法団・京都支部の奉仕による法要が行われました。5人の尼僧の方々による阿弥陀経の読経に合わせて、参拝者全員が焼香を行い、故人を偲んでいました。

秋季彼岸会　～六親眷属、一人残らず救われる教え～

９月23日、京都教会に於いて秋季彼岸会が行われました。

家族による奉献の儀、読経供養、説法、教会長さんのお言葉がありました。

説法では中央支部のN主任が自身の病気療養の体験から、下半身不随になってもおかしくない中、多くのご守護を頂き、無事手術成功し発病前と変わらない生活に戻れたことを発表されました。

病名がはっきりしていること、成功率は分からないが手術そのものが出来るということが分かったことに感謝出来たと述べられました。法華経は人生を明るく、前向きに生きていける教えだと改めて認識したこと、仏さまは常に人を救おうとされていることを実感出来たことを通して、開祖さまの弟子として自ら燈明となれるよう精進していきたいと結ばれました。

佐藤教会長さんはお言葉の中で、主任さんの日々の修行の賜物だとし、病気が信仰で治るのは当然のことと開祖さまのお言葉を紹介されました。

・ご先祖に朝夕ご供養を行うことでご供養している人に戻ってくる
・諸仏、諸菩薩のご加護
・会員さんの祈願供養
・信仰で心が変わることで身体が変わる
・体を積極的に動かすようになる
・姿勢を正して複式呼吸でご供養をする

そして「佼成会の信仰は六親眷族、一切の親族や先祖が一人残らず救われる教え」と述べ、家族が揃っての信仰の大切さを教えて頂きました。

●１０～１１月の主要行事予定

１０月	４日	開祖さま入寂会	9：00～
	１０日	脇祖さまご命日	9：00～
	１５日	釈迦牟尼仏ご命日	9：00～
	１９日	京都教会発足55周年記念式典	9：00～
１１月	１日	朔日参り・布薩の日・七五三	9：00～
	４日	開祖さまご命日	9：00～
	１０日	脇祖さまご命日	9：00～
	１５日	開祖さま生誕会	9：00～

●メッセージ

神戸で小学一年生の女の子が殺害されるという事件が発生し、捕まった容疑者は普段から近所でもめ事を起こしていたと報道されています。私たちは日頃から明るい社会をつくろうと努力していますが、このような事件を見るたびに無力さを感じます。ある議員さんはハチドリパトロールと称し、地域の方々と協力して通学路の危険個所の点検や清掃活動を地道にされています。本当に頭が下がる思いです。